

GF

ジェンダーフォーラム
通信
GENDER FORUM PRESS
女とは？男とは？考えるマガジン

和光大学 ジェンダーフォーラム 〒195-8585 東京都町田市金井町2160 和光大学ジェンダーフリースペース(G112) TEL 044-989-7777 内線4112

LECTURE

韓国の純情漫画と

日本の少女マンガ

去る5月14日、東京大学の秋菊姫（クキー・チュウ）さんをお招きし、日本と韓国における漫画文化の関わり、そしてそこに見られるジェンダーの問題について講演していただいた。

今や日本の代表的な大衆文化として海外に発信されているマンガというコンテンツ。日本の少女マンガを土台に発展した韓国の「純情漫画」文化という今回のテーマは、ふだんジェンダーに関心のない人にとっても、なかなか興味深いものだったように思う。

講演内容は主に、日本統治時代から民主化に至るまでの韓国の歴史的背景と、それに並行して漫画文化がどう進化していったのか、というもの。進化の過程で日本の少女マンガがどう影響したか、女性が漫画を描くことによって、漫画という文化にどのようなジェンダーの問題があらわれるのか、といったことが論の焦点となった。

韓国における漫画文化の実験期となった1950年代、「純情漫画」というジャンルが登場・定着する60年代、日本のマンガの海賊版が氾濫した70年代、模倣やパッチワークを経て独自の漫画を作ろうとした80年代。韓国の漫画文化が成長していく過程でその手本となったのが、『ペルサイユのばら』や『ガラスの仮面』といった、著名な少女マンガの数々だったのだという。韓国の漫画家たちは、日本の少女マンガをトレースしたり、つなぎ合わせたりすることで、その方法論を学び取った。模倣やトレースというと聞こえは悪いが、現在のように日本のマンガがまだ海外に誇れるような大衆文化としては定着していなかった時代において、すでに少女マンガが韓国に大きな影響を与えていたというのは、とても名誉なことだろう。

女の子が主人公として活躍する、少女向けの「純情漫画」

を作り出した第一世代に続いて、80～90年代の第二・第三世代は、漫画に政治色を取り入れた。漫画市場に理解の薄かった韓国内で同人サークルを作ってアングラ活動をし、漫画の創作に強いプライドを持っていた彼女たちは、活動家たちと結びついて、日本の少女マンガの単なる模倣から脱却していく。絵柄や構成には娯楽である少女マンガの影響を色濃く残しつつも、韓国の「純情漫画」は、民衆の、特に女性の政治的主張を反映した独自の文化となっていく。

「韓国の軍事政権下で失われた、女性の声の回復が必要」と、クキーさんは語った。儒教の伝統が根強く、しかも長期間にわたって軍事独裁政権が続いていた韓国では、女性の声は長いあいだ封殺されていたのだという。「純情漫画」という大衆文化は、日常のなかで女性や政治の問題を捉え直す恰好の材料なのである。



今回の講演では、隣国でありながらあまり知ることのなかった韓国漫画文化と、その政治的背景について学ぶことができた。「純情漫画」のなかには女性たちの主張が高らかに響いている。しかし、韓国ではまだ多くの人がその重要性に気付いていないという。「純情漫画」が今回の講演のように単なる娯楽以上の価値あるものとして人々に認識され、研究される日は、いつ訪れるのだろうか。

「純情漫画」というひとつの文化のなかに、韓国のこれからの可能性が詰まっている。

（松岡有希／表現文化学科2007年度卒）

ジェンダーで見る桃太郎

桃から男子で鬼は外

— 2008年6月21日～27日、梅根記念室でオリジナル展示企画を開催しました。

「桃太郎」が成立したのは室町時代末期だといわれています。この物語は桃にまつわる伝説や在来の英雄譚などが融合したもので、さまざまなイメージが盛り込まれています。また、長く語り継がれる間にさらなる要素や解釈が付け加えられてきました。今回の展示は、この物語を語り継いできた人々がどのようなジェンダー観を持ち、それを形象化してきたのかを探ってみようというコンセプトのもとに企画されました。この報告では3つの展示セクションにそって、おもな展示物を紹介します。

■ セクション1. 桃太郎と性

桃が割れて元気な男の子が生まれる姿は、絵本『桃太郎』（齋藤五百枝・画、松村武雄・文、講談社、昭和12年）に典型的に描かれています。これは「果生型」とよばれる桃太郎誕生のパターン。実はもうひとつ、お爺さんとお婆さんが桃を食べて若返ったことで子供を授かる「回春型」というものもあります。『桃太郎昔話』（西村重信・図）には、桃太郎の出産場面ですっかり若返ったお爺さんとお婆さんの姿が描かれています。この作品は江戸中期にさかんに出版されるようになった「赤本」（在来の伝承や文芸に素材をとった絵本）の一種。江戸庶民はむしろ回春譚に親しんでいたようです。同じく近世に描かれた「桃太郎絵巻」（英一蝶図・龍雲斎写）でも若返ったお爺さんとお婆さんの姿が見られます。

■ セクション2. 皇国日本のヒーロー

犬、猿、雉を従えて鬼を退治するという桃太郎の武勇伝は、明治以後、日本が外国と戦争するたびにプロパガンダとして使われました。日本初のグラフィック誌『風俗画報』の表紙を飾った「征清図絵」（風俗画報第7編臨時増刊表紙絵）はその代表的な例といえるでしょう。桃太郎は、国民の〈父〉である天皇の威光の分身あるいは使者の役割を果たすべく、絵本から着物柄までさまざまなメディアに現れて「皇国日本」のヒーローとなっていくのでした。第二次大戦中には、アニメーション映画「桃太郎の海鷲」（瀬尾光世、1942年）、「桃太郎 海の神兵」（同、1945年）が戦意高揚のための目的で製作されました。

■ セクション3. 主役の座をおりた桃太郎

「さまざまな桃太郎絵本」のコーナーを設け、「桃太郎」（芥川龍之介・文、寺門孝之・イラスト、ピエ・ブックス、2005年）、「だれでも知っているあの有名な桃太郎」（五味太郎絵本館、2007年）などを実際に手にとって読めるようにしました。現代の桃太郎はずいぶんと幼く、優しい姿かたちをしています。さらに、桃太郎は主役の座から降板し、マンガやゲーム、商品広告に展開される過程でキャラクター化していきました。かつて物語の深層から湧き出ていた性にまつわる想像力やどろどろとした情念などは薄らぐ一方です。とはいえ、創作劇「モモタロウ・ノーリターン」（北名古屋市女性の会男女共同参画委員会、2007年、DVD）は男女の役割分業にしぶとく潜んでいる、男らしさと女らしさの固定観念にメスを入れる試みを見せてくれます。

（長尾洋子／総合文化学科）

会場図



（中村美咲／表現文化学科 2007年度卒）



感想ノートから

ご覧くださった皆さんの感想をいくつかご紹介します。

* * * * *

これまで私は桃太郎を深く考えたことがありませんでした。桃太郎といたら、おじいさんが芝刈りにおばあさんは川に洗濯に行き、最終的には鬼を退治し、ハッピーエンドを迎えるものだと思っていました。しかし、桃太郎にも「果生型」「回春型」があったり、鬼を教え諭すものがあったりする。なぜこのようにいくつもの話が生まれたのでしょうか。今回のように「ジェンダーでみる」ことでその答えが少し分かった気がします (GT/経営メディア学科1年)。

* * * * *

桃太郎誕生について私たちが一般的に知っている果生型の他に桃を食べたおじいさんとおばあさんが若返り、子どもができるという回春型の二つがあることを初めて知りました。果生の方が主流のようですが回春の方の話も面白くもう少し知りたいと思いました。今回の展示会で新たな桃太郎が発見できた気がしました。(YA/表現文化学科3年)

* * * * *

桃太郎ってこんなにも時代時代によって描かれ方が違っていったのかと改めて具体的に見ることができて勉強になった。

STAFF INTRODUCTION

はじめまして

今年の5月からGFのスタッフとして加わりました。変わったけれど変わらない母校の坂道を登るのは不思議な感覚でした。目にしみるメタセコイアの緑は変わっていませんでした。GFが在るということは大きな変化の一つです。部屋の書架には、ジェンダー研究の本が並んでいます。眺めていると、研究の広がりや深まりが感じられます。ウイメンズリブの盛んだった頃は、何か馴染めなかった記憶があります。今思えば無理からぬことであつたとは思いますが、一歩引いてしまいました。その後、二人の娘を育てながら将来を考えました。今社会で健闘している姿をみると、私もまだ一緒に歩いて、同じ問題を受け止めようと思っているところです。

フォーラムの活動への参加は桃太郎展の準備の途中からでしたが、学生の皆さんと一緒にパネルづくりをしたのはとても楽しいことでした。図書館の展示室にパネルを掛けて眺めると、流れが見えてきて、発見もありました。手伝ってくださった学生の皆さん次のイベントも又来てくださいね。辛抱強くご指導くださった半田先生ありがとうございました。こうして書いてみるとスタッフになってきた気がします。

(浦田真智子/GFスタッフ/人間関係学科1982年度卒)

戦争中には健康優良児のシンボルになったり、軍国少年になったり、びっくりした。今の時代の桃太郎もまた変化していて、五味太郎氏の描く桃太郎は鬼と戦っても鬼の言い分が描かれていたり、桃太郎一方の考えや立場を描いたものじゃなく、おもしろいと思った (TM/人間関係学科4年)。



謝辞

今回の展示でお世話になった皆さまです。ありがとうございました。塩崎文雄先生(表現学部)・三上豊先生(表現学部)・加藤三由紀先生(表現学部)・半田滋男先生(表現学部)・乾淑子先生(北海道東海大学)・和光大学附属梅根記念図書館・立教大学図書館・愛知県北名古屋市・群馬県立土屋文明記念文学館・メガネドラッグ。

4月からGFスタッフとして主に水曜のジェンダーカフェを担当している安河内です。まだ仕事を始めて数ヶ月余りを経たところですが、その間に東京大学大学院のクキー・チュウさん(韓国)の講演会や、「ジェンダーでみる桃太郎」の企画展示などが有り、スタッフとしての仕事もまだ慣れない中で戸惑いながらも先生方や学生の方々と協力し合いながら何とか終える事ができました。微力ながらもお手伝いできた事は嬉しく、又貴重な経験をさせて戴いた事に感謝しています。まだこれから先、色々なイベントが計画されてゆくと思いますが、私も又、次はどんな経験ができるのかを皆さんと共に楽しみにしています。年齢に関わらず、学ぶ事は楽しく、且つ人生を豊かにしてくれるものなので、その楽しさを一人でも多くの方々に発信して行ければ。と思っています。

とりあえずの私の使命は、ジェンダーカフェの認知度を高め、充実させてゆく事です。G112、毎水曜日、12時~1時迄のお昼休みはカフェを開催しています。飲み物は種々用意してありフリードリンク。フリートーク。例えば、話題の映画、TVドラマについて等内容は何でもOK。

ランチタイムと一緒に過ごしてみませんか?スタッフ一同皆さんの来室を歓迎致します。

(安河内みどり/GFスタッフ)

「ラストフレンズ」

フジテレビ
2008.4.10～6.26

長澤まさみ、上野樹里、瑛太、錦戸亮らが共演したドラマ「ラストフレンズ」は、ドメスティック・バイオレンス (DV)、性同一性障害、親密性の新たな関係づくりなど、ジェンダーに関する諸問題を投げかけ、話題になりました。このドラマへの感想を募集したところ、21 通の応募がありました。特に DV に関して書かれた感想中、3 点を掲載します。

* * * * *

このドラマを初めて見た瞬間、私は次週から見られないと思った。なぜなら宗佑が美知留を思う気持ちが痛いほど感じられたからである。視聴者は美知留を助けなければならないと思うだろうが私は違う。宗佑は美知留の気持ちがどんどん離れていくことを切実に感じ、それを繋ぎ止める為の手段が分からず、美知留を殴り、力づくで引き止める事しか彼には出来なかったのだと思う。人は、心から愛している人を失う時、冷静な判断が出来なくなり宗佑のような行動をすることがある。彼は異常なのではない。ただ、彼には相談する人もおらず力任せに繋ぎとめようとしただけなのだ。もちろん、宗佑が美知留にしたことはいけないことではある。しかし、彼は自分では美知留を幸せに出来ないと悲しみ、プレゼントするはずであったウェディングドレスを抱きながら自ら命を絶った。心から自分を愛してくれる人は世界に何人もいるとは限らない。彼らはもう少し違う行動をしたならば、きっと幸せになれたであろう。異性愛同士でなくとも、幸せな家庭が作れることを教えてくれた作品でもあった (太田寿里/現代社会関係論コース院生)。

* * * * *

ラストフレンズはちょっとしか見ていなかったが、衝撃的だった。男は女の子を好き過ぎて、女の子を自分の思い通りにさせたい。思い通りにいかないと力づくで従わせる。きつと精神的に未熟なのだと思うし、幼少期の育ち方による影響が大きいと思う。女の子は、家庭の育ち方のせいで、人から自分が必要とされることを望み、その相手がこの男だった。お互いに傷をなめあい、そしてまた傷をつくっている。そんな印象だった。離れようとしても離れられない。人を好きになることって、難しいと感じた (さち/人間発達学科4年)。

* * * * *

ラストフレンズは、すべて見ました。全部見た感想としては、DV を受けている人に対して、必ずしもあんなにやさしい周りの人がいるとは限らなくて、被害者がそのままズルズルといってしまうパターンもあるのではないかと思います。DV 被害者は全く理不尽な理由で暴力を受けているのに、「自分が悪い」と思い込んでしまい。同じことが繰り返されてしまうのだらうと思った。でもやっぱりすぐに警察とかに相談した方がよかったと思う。ドラマでは、仲間で一応解決した感じになっていたが、現実とドラマはやっぱり違うので (ひろゆき/総合文化学科1年)。

* * * * *

ジェンダーフォーラムでは今後も、ドラマ、コミック等の話題作について、ジェンダーカフェで話し合ったり、感想文を通信に掲載していく予定です。とりあげたい作品があれば、ぜひお知らせください。

EVENT INFORMATION

イベント情報

講談 フラガール物語 — 常磐炭礦余聞

日 時 …… 10月22日(水)15時00分～

場 所 …… 和光大学 J-401 教室

出 演 …… 講談師・神田香織さん

昭和 40 年代初め、石炭から石油へとエネルギーの主役が交代する裏側で、斜陽化していく炭砦の街を救うため、娘たちは必死になってフラダンスに挑戦することになりました。

大ヒット映画『フラガール』の舞台となった福島県いわき市の常磐炭礦・常磐ハワイアンセンターの物語を、地元出身の講談師・神田香織さんが炭礦の歴史やハワイアンセンターで遊んだ子ども時代の思い出を交えて語ります。

神田香織さんプロフィール

福島県立磐城女子高校卒業後、東京演劇アンサンブル、渡辺プロダクション・ドラマ部を経て、1980 年、二代目神田山陽門下生に。1989 年、真打昇進。漫画『はだしのゲン』やチェルノブイリ原発事故をテーマにした社会性の強い演目を得意とする一方、ご自身の体験



に基づいた各種の講演、一般向けの話し方教室など、幅広いレパートリーをお持ちです。和光大学での公演は 2 度目。前回の講演会「花も嵐も講談師が語ります」は大好評でした。